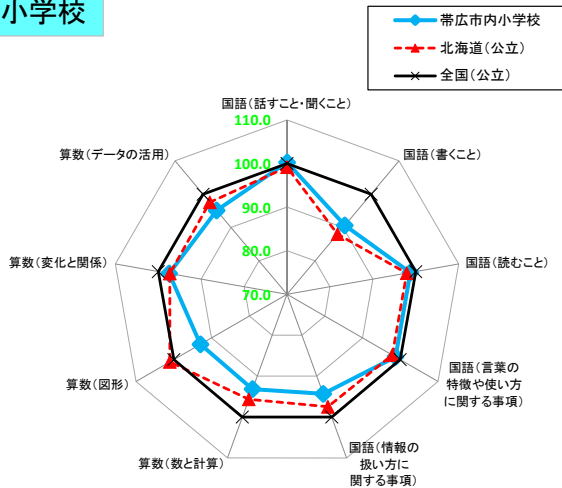


■帯広市内の状況及び学力向上策（小学校数：26校、児童数：1246人）（中学校数：14校、生徒数：1151人）

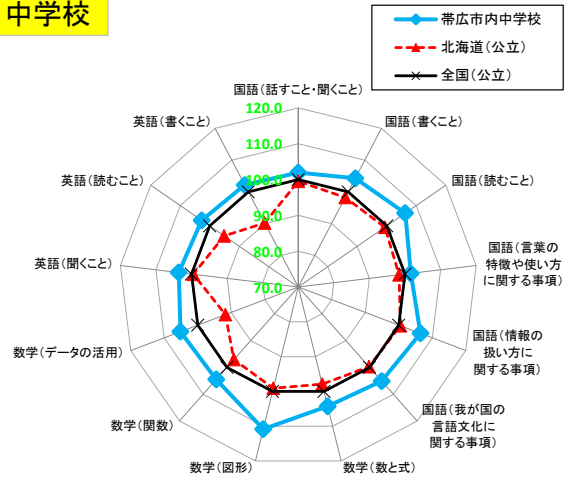
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

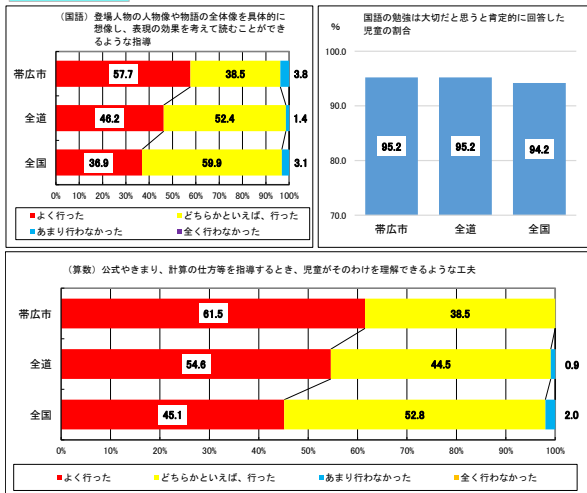


中学校

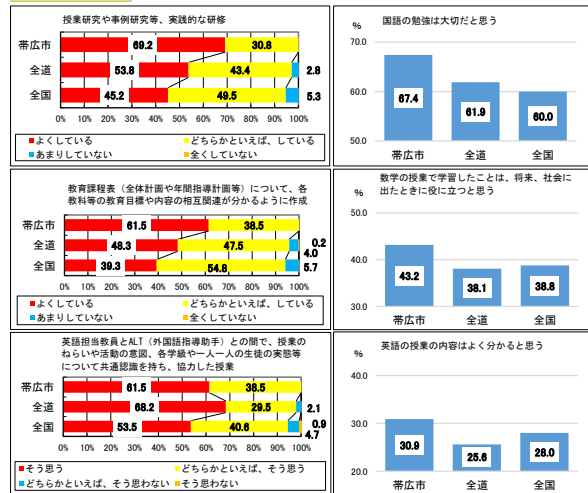


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えながら読むことができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国を上回るとともに、国語の「読むこと」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるような工夫を行ったことにより、算数の「変化と関係」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、国語の授業は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の全ての領域及び事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成したことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語担当教員とALT(外国語指導助手)との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行ったことにより、英語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【帯広市の学力向上策】

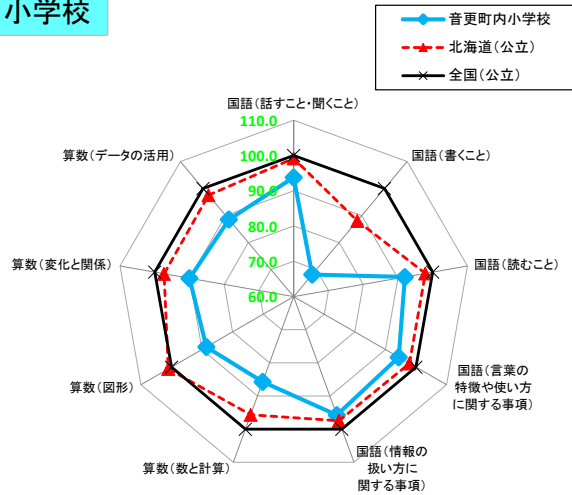
- ◎ 中学校区を基本とした「エリア・ファミリー」の代表者で組織した帯広市学力向上推進プロジェクトチームにおける各種調査結果等の分析及び課題や取組の共有
- ◎ 科学研究費助成事業における大学教授と連携した授業改善の推進
- ◎ 教職員を対象とした長期休業研修における1人1台端末に係る研修講座等の開催及び教職員の資質能力の向上、授業改善の推進
- ◎ 「重点化」と「共有化」をキーワードとした学力向上に係る1校1実践の取組

■音更町内の状況及び学力向上策（小学校数:10校、児童数:341人）（中学校数:5校、生徒数:402人）

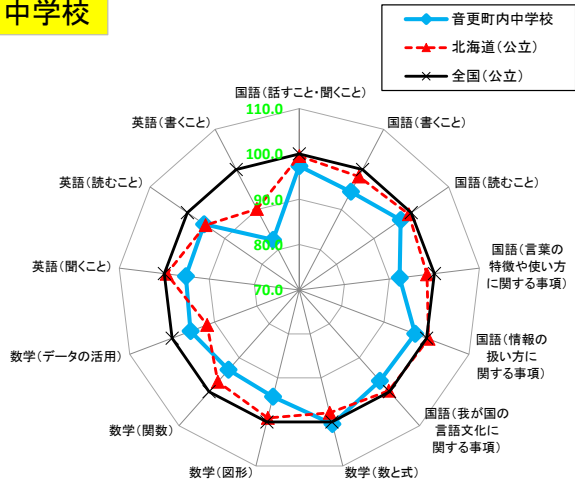
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

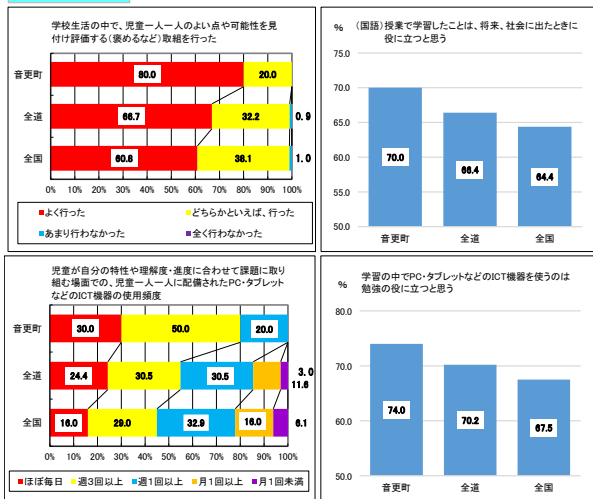


中学校

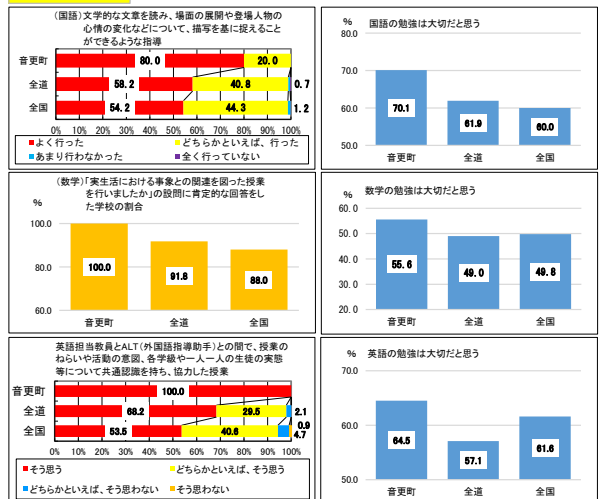


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「読むこと」の領域で全国及び全道の平均正答率に近付いたと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「数と式」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語担当教員とALT(外国語指導助手)との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行ったことにより、英語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の「読むこと」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【音更町の学力向上策】

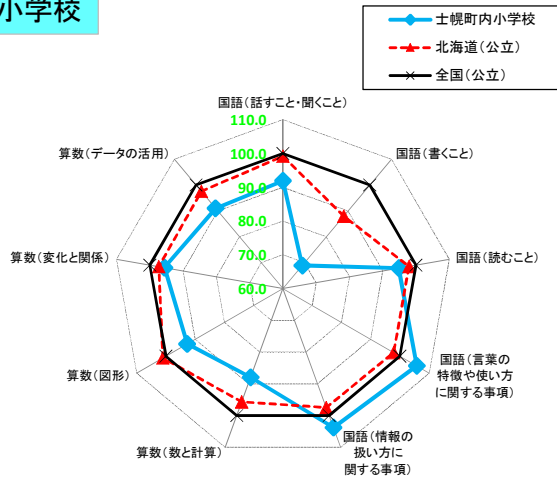
- ◎ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 授業におけるICTの効果的な活用に向けた音更町教育研究所主催によるGIGA端末活用研修会の実施

■士幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:38人）（中学校数:1校、生徒数:43人）

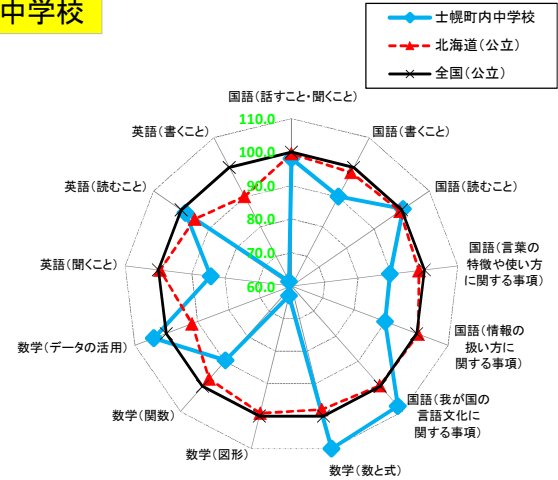
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

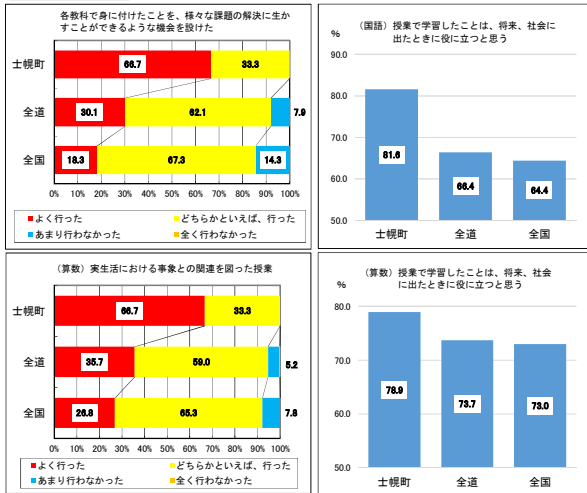


中学校

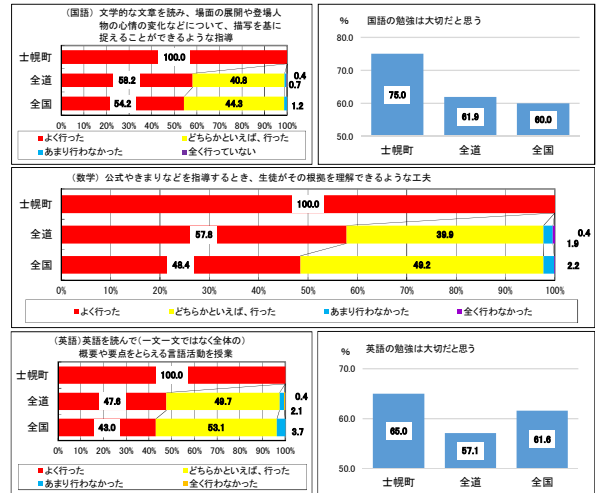


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学校生活の中で、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設定したことにより、授業改善が図られ、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の2事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の「変化と関係」の領域で全国及び全道の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

中学校

国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「読むこと」の領域及び「我が国の言語文化に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるよう工夫したことにより、数学の「数と式」「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語の授業において、英文を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる言語活動を授業で行ったことにより、英語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の「読むこと」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【士幌町の学力向上策】

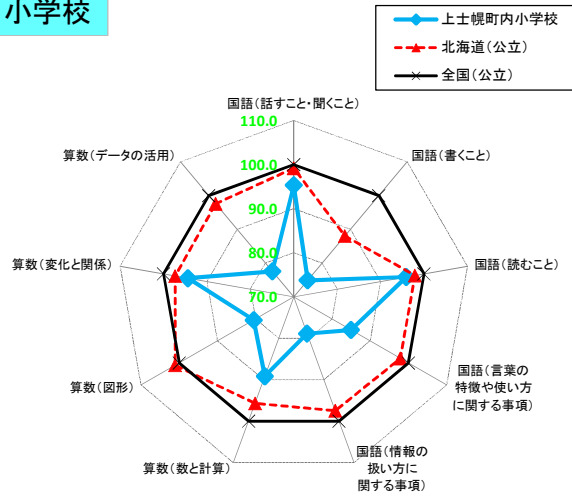
- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果分析に基づく児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用

■上士幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:40人）（中学校数:1校、生徒数:32人）

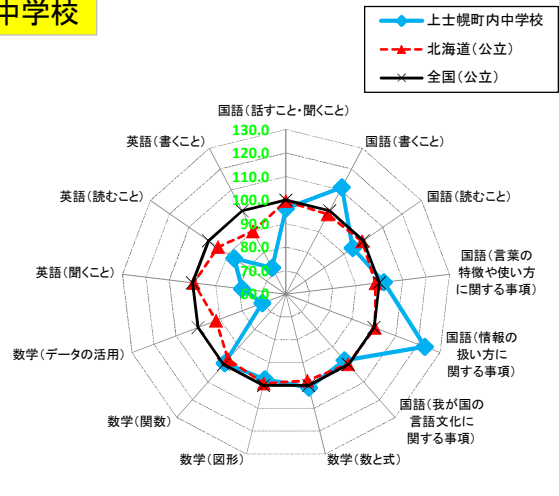
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

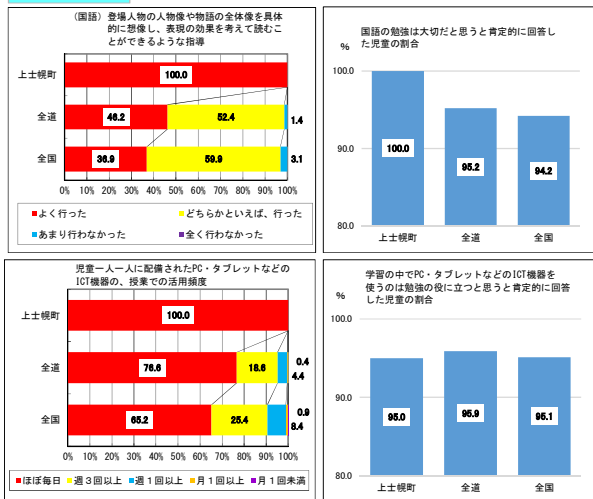


中学校

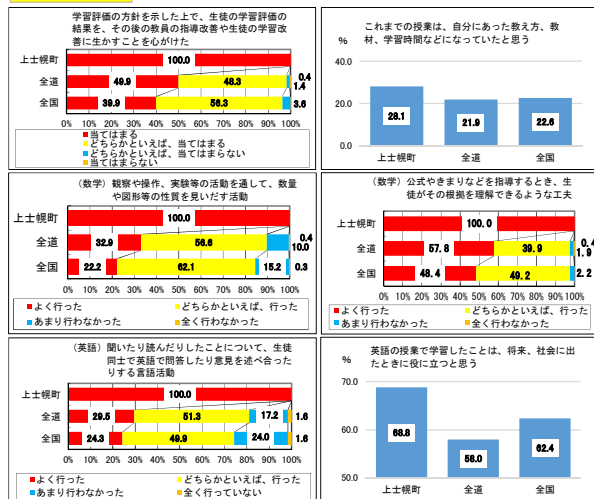


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えながら読むことができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「読むこと」の領域で全道の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国と同様となったと考えられる。

中学校

学習評価の方針を示した上で、生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしたことにより、これまでの授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の1領域2事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動や実生活における事象との関連を図った授業、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるような工夫をしたことにより、数学の「数と式」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行ったことにより、英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

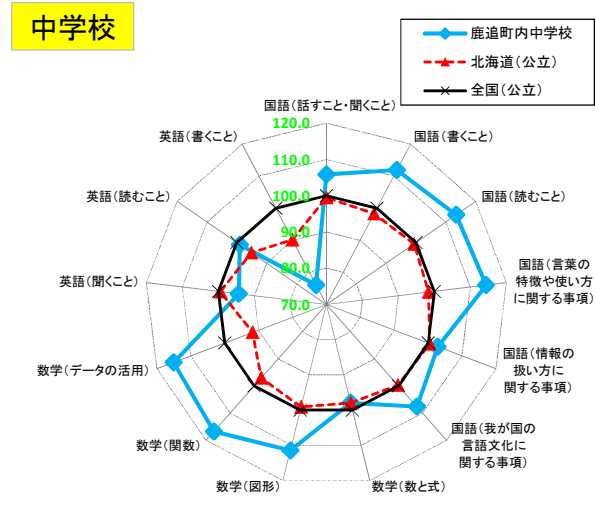
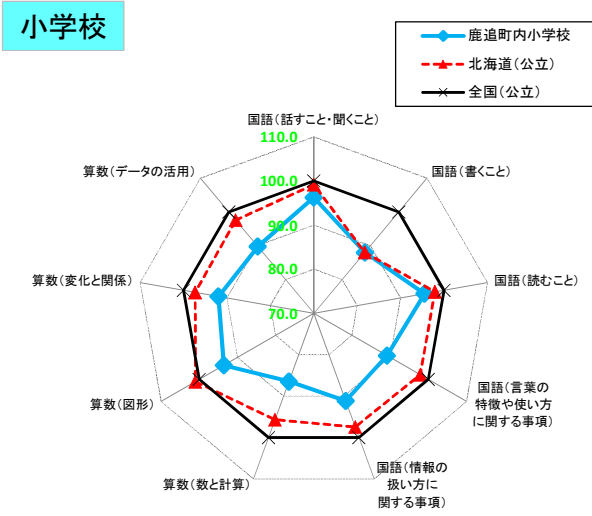
【上士幌町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果を活用した授業改善及び各教科等における言語活動の充実
- ◎ 情報活用能力を高めるとともに学びを深めるためのICT端末の利活用
- ◎ こども園から小・中学校までの目指す子ども像を共有することによる一貫した教育の推進
- ◎ 小・中学校と家庭の連携による規則正しい生活リズムと学習規律の徹底

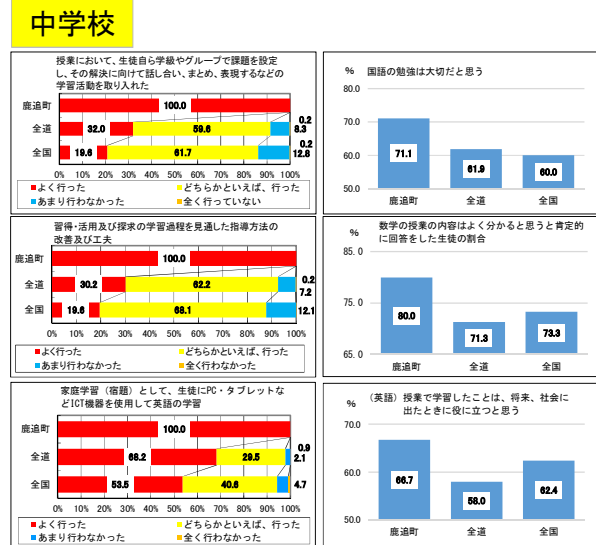
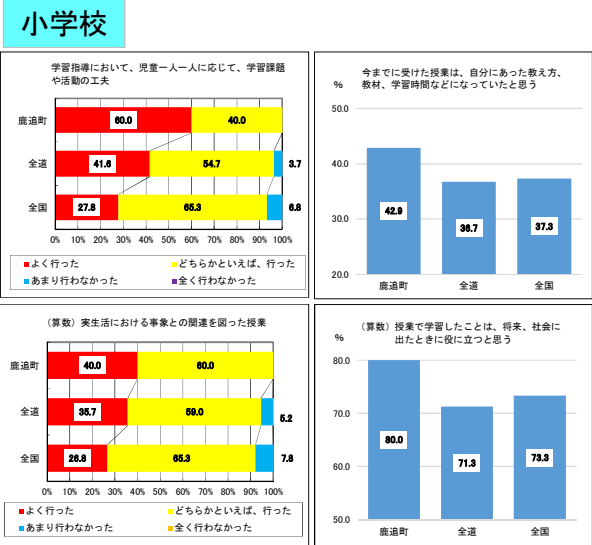
鹿追町内の状況及び学力向上策 (小学校数:5校、児童数:51人) (中学校数:2校、生徒数:46人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業改善が図られ、今までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の全ての領域及び事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業において、習得・活用及び探求の学習の過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かったと思うと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の3つの領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語の授業において、家庭学習(宿題)として、生徒にPC・タブレットなどICT機器を使用して英語の学習を行ったことにより、英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の「読むこと」の領域で全国の平均正答率に近付いたと考えられる。

【鹿追町の学力向上策】

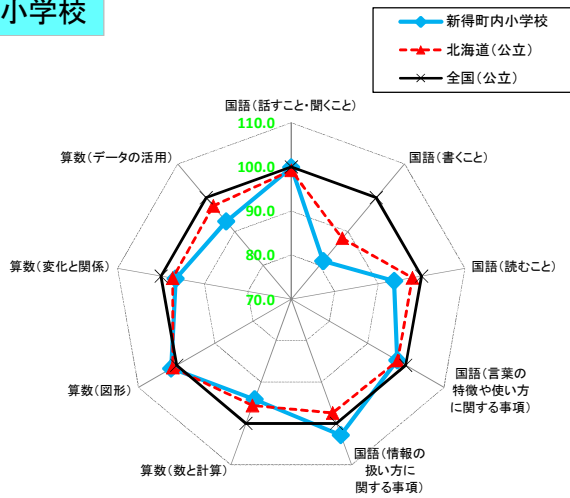
- ◎ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用
- ◎ 小・中学校9年間を見通した学習規律及び学習過程の統一による系統的な指導の推進

■新得町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:46人）（中学校数:3校、生徒数:30人）

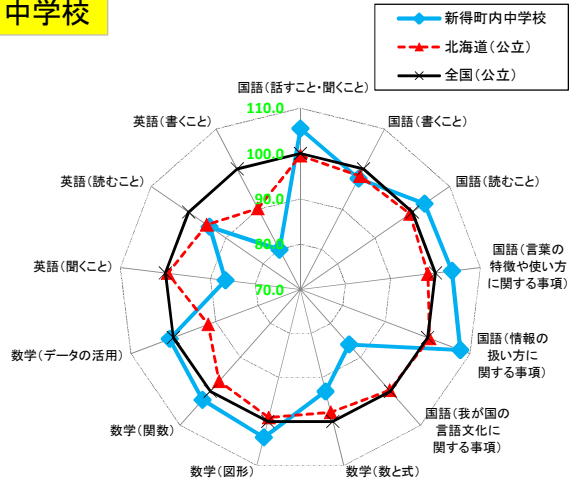
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

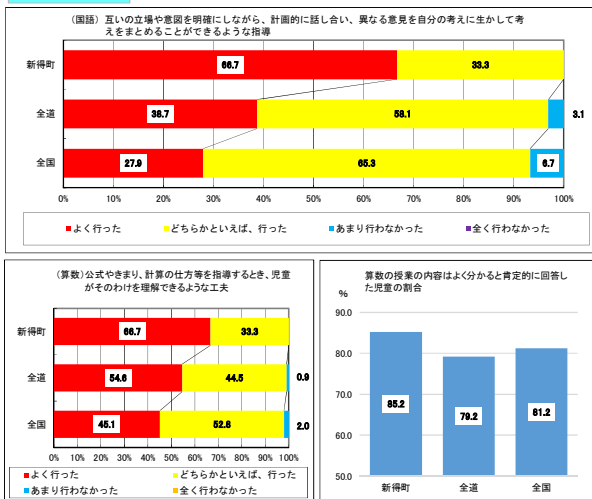


中学校

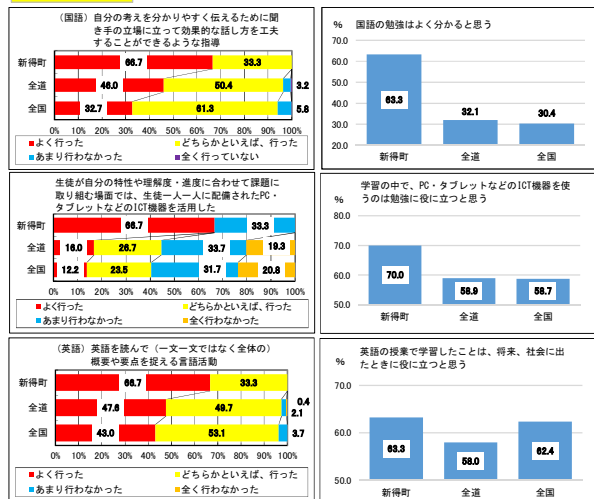


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の「情報の扱い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるような工夫を行ったことにより、算数の授業はよく分かったと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために聞き手の立場に立つ効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせてPC・タブレットなどのICT機器を活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

英語の授業において、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動を行ったことにより、英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の「読むこと」の領域で全道の平均正答率に近付いたと考えられる。

【新得町の学力向上策】

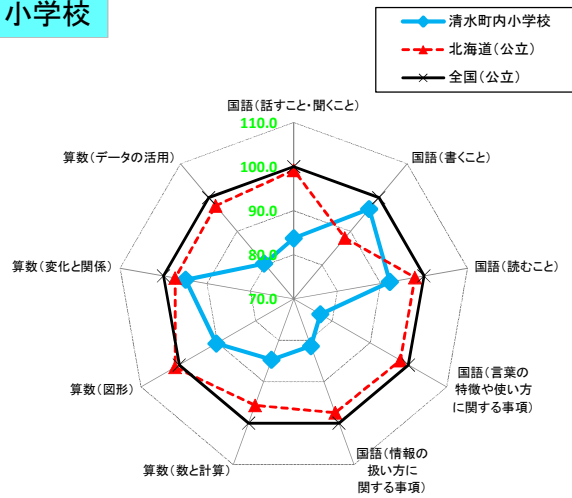
- ◎ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 町費負担教員の配置による少人数学級の実施及び複式授業の効果的な学習指導に向けた体制の充実
- ◎ 児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用

■清水町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:62人）（中学校数:2校、生徒数:63人）

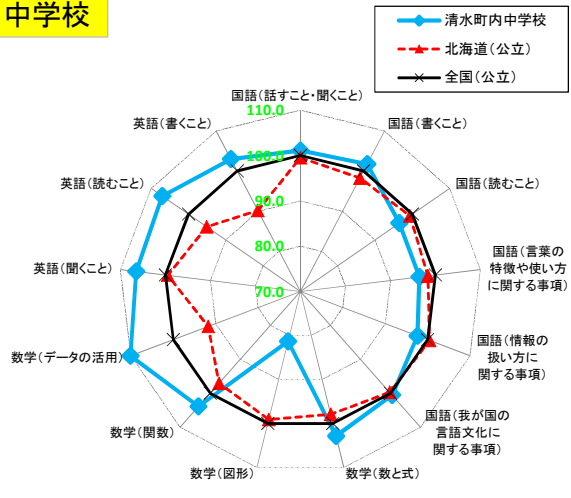
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

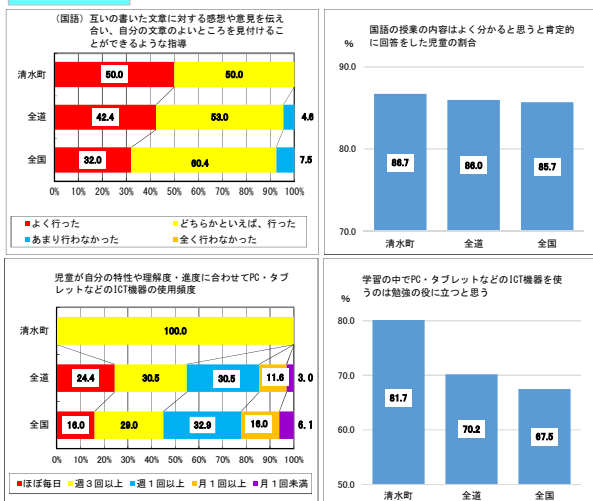


中学校

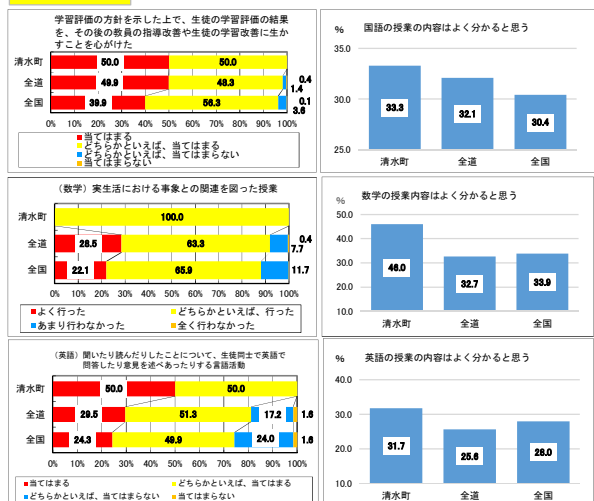


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かると思うと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「書くこと」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

児童が自分の特性や理解度・進度に合わせてPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習評価の方針を示した上で、生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけたことにより、国語の授業の内容がよく分かると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の2領域1事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業の内容がよく分かると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べあったりする言語活動を行ったことにより、英語の勉強はよく分かると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【清水町の学力向上策】

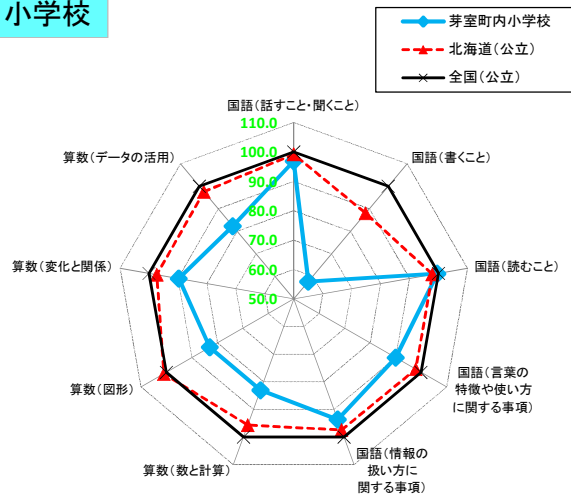
- ◎ 小学校国語科における、指導事項の系統性を見据え、言語活動の充実を図った授業改善の推進
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用

■芽室町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:175人）（中学校数:3校、生徒数:181人）

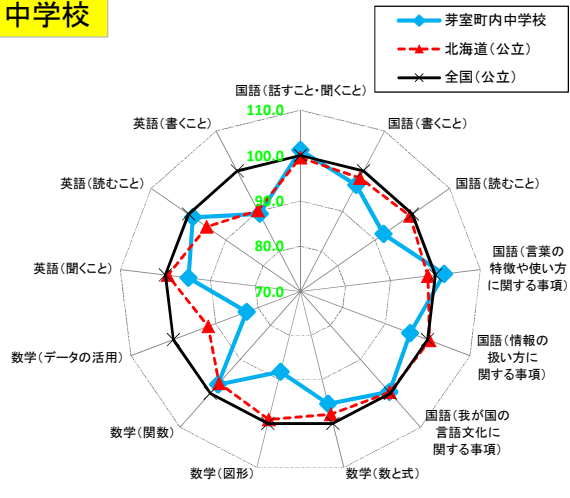
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

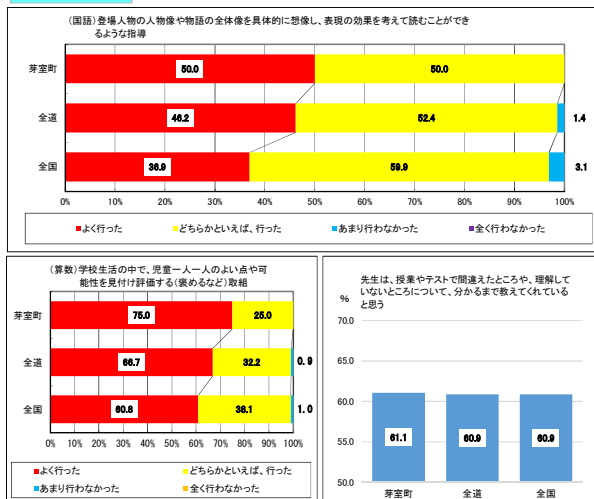


中学校

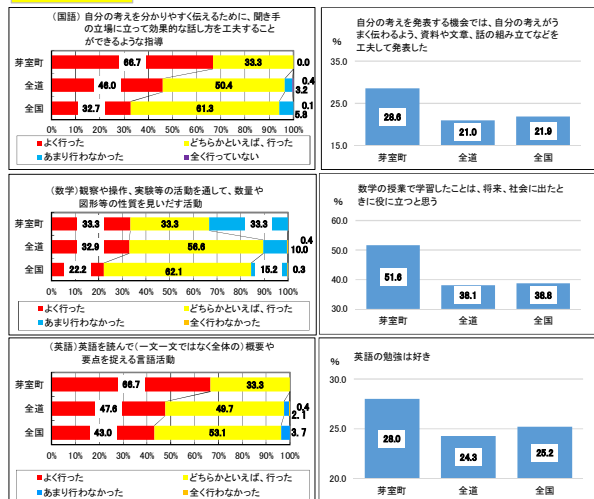


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考え読むことができるような指導をよく行ったことにより、国語の「読むこと」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「関数」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語の授業において、英語を読んでも(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動を行ったことにより、英語の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の「読むこと」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【芽室町の学力向上策】

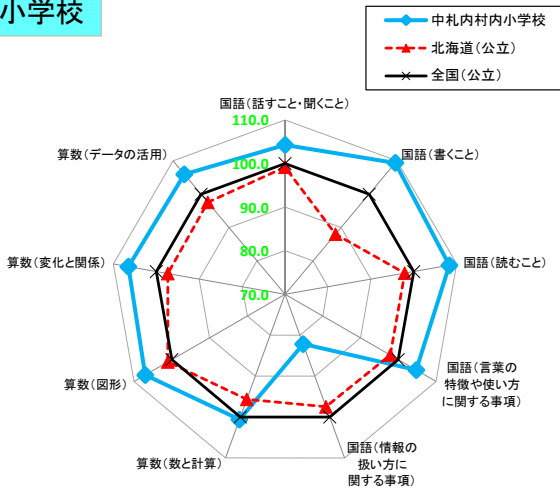
- ◎ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 中1ギャップ問題未然防止事業による学習・生活両面における小中連携の推進
- ◎ 基礎・基本の定着に向けたAIDリルの活用

■中札内村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:48人）（中学校数:1校、生徒数:31人）

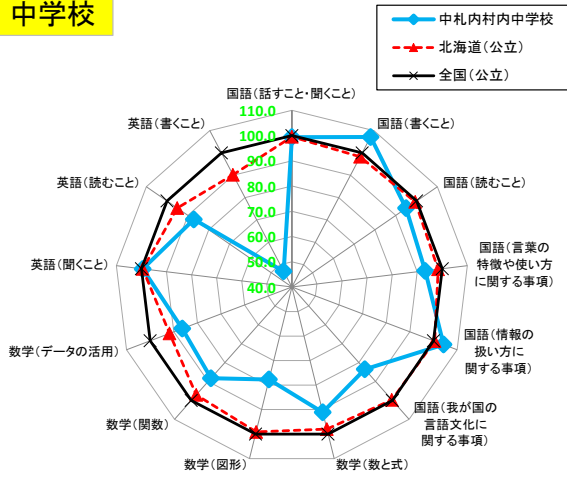
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

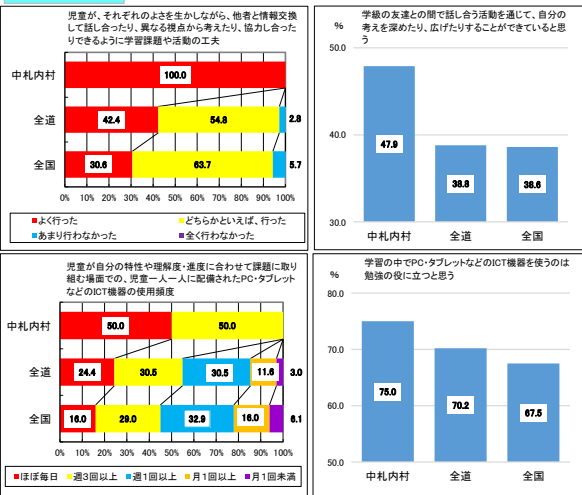


中学校

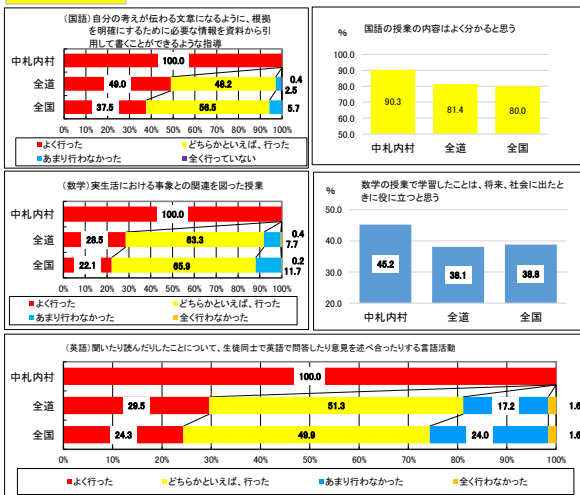


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の3領域1事項、算数の全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行ったことにより、国語の授業はよく分かると思うと肯定的に回答した生徒の割合が全道及び全国を上回るとともに、国語の1領域1事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

英語の授業において、聞いた/読んだ/書いたことについて、生徒同士で英語で回答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行ったことにより、英語の「聞くこと」の領域で平均正答率が全国に近付いたと考えられる。

【中札内村の学力向上策】

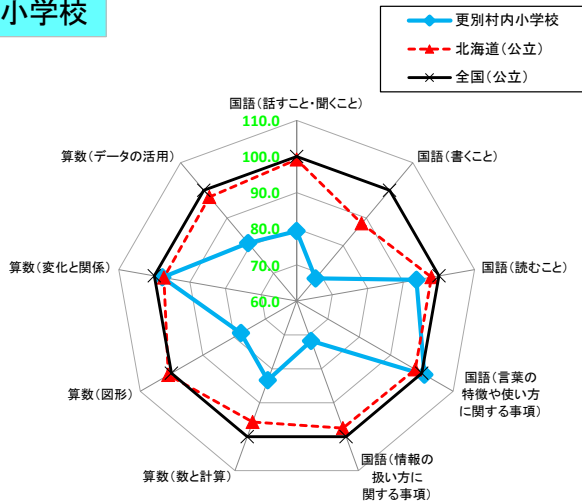
- ◎ 小中連携に向けた「学力・体力向上等サポート会議」による調査結果の分析及び授業改善に係る取組の推進
- ◎ 小・中学校9年間を見通した学習規律及び基本的な学習過程による系統的な指導の推進
- ◎ 1人1台端末やデジタル教材を効果的に活用した基礎・基本の徹底及び習熟度別・TT指導による個に応じた指導の充実に向けた加配教員の活用
- ◎ 長期休業中における教職員の実践的指導力向上に向けた中札内村・更別村合同研修会の実施

■更別村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:22人）（中学校数:1校、生徒数:27人）

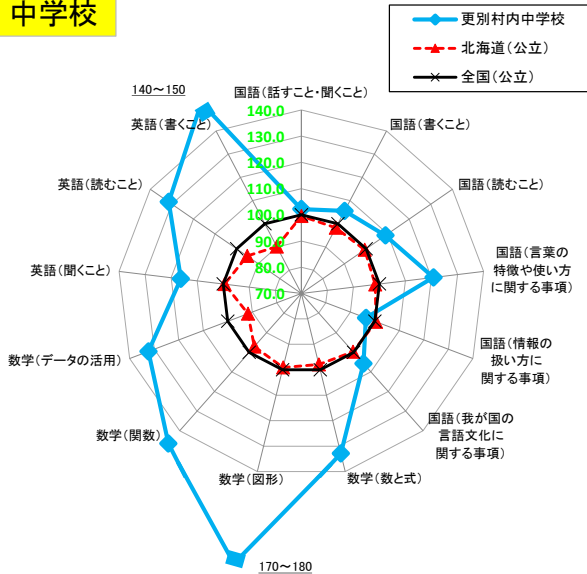
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校

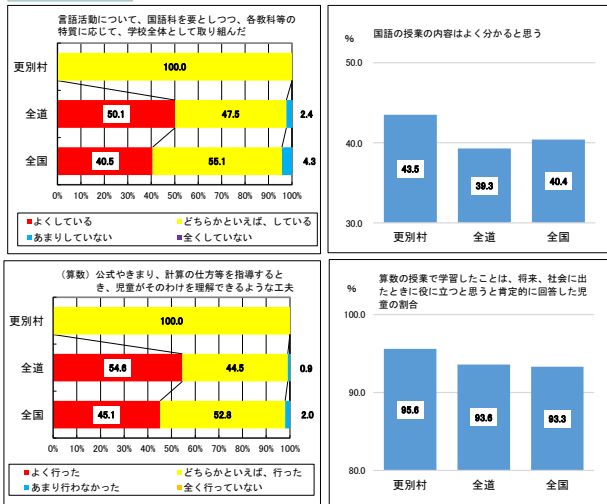


中学校

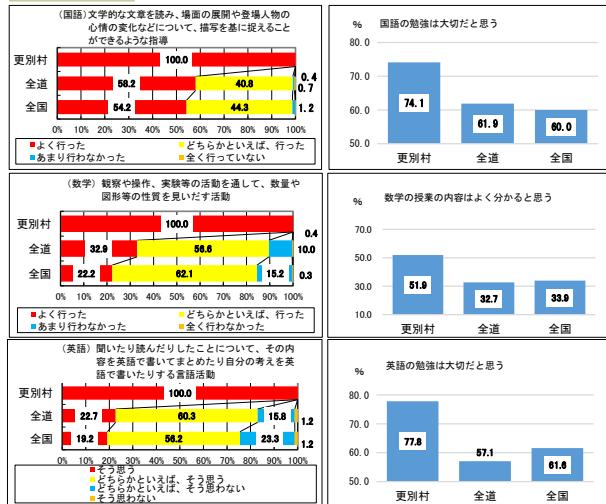


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動において、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の授業の内容はよく分かると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「言葉の特徴や使いに関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるような工夫を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の「変化と関係」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行ったことにより、生徒が国語の勉強は大切だと思うようになり、学習内容の理解が図られ、国語の3領域2事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かると思われ、回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行ったことにより、生徒が英語の勉強は大切だと思うようになり、学習内容の理解が図られ、英語の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【更別村の学力向上策】

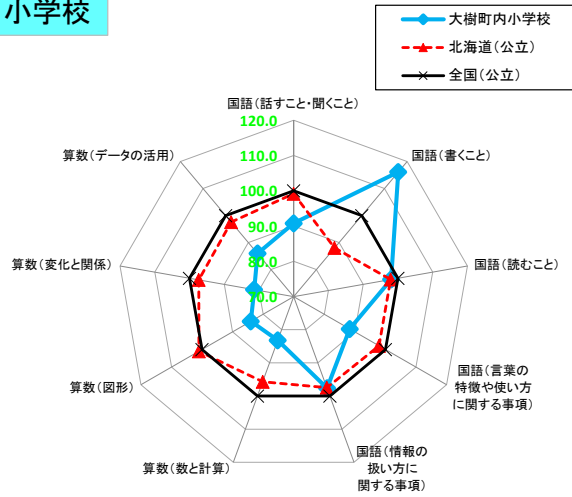
- ◎ 小中連携に向けた「学力・体力向上等サポート会議」による調査結果の分析及び授業改善に係る取組の推進
- ◎ 小・中学校9年間を見通した学習規律及び基本的な学習過程による系統的な指導の推進
- ◎ 児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用
- ◎ 長期休業中における教職員の実践的指導力向上に向けた中札内村・更別村合同研修会の実施

■大樹町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:42人）（中学校数:1校、生徒数:41人）

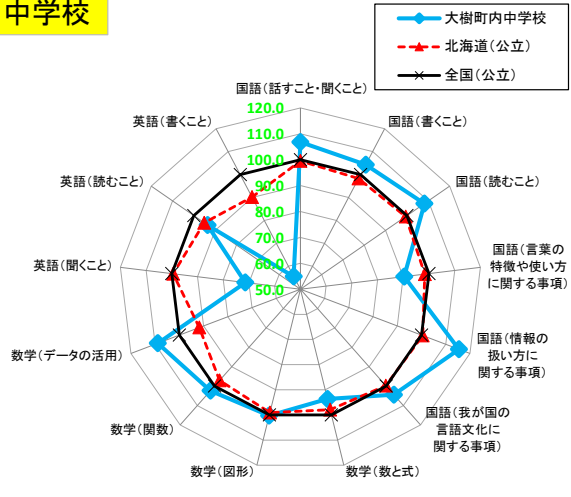
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

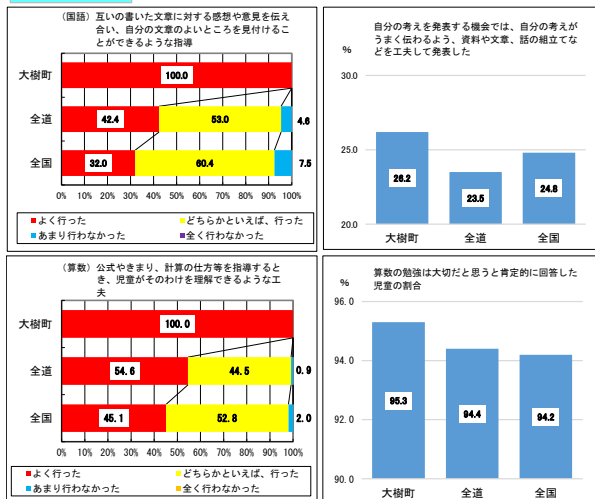


中学校

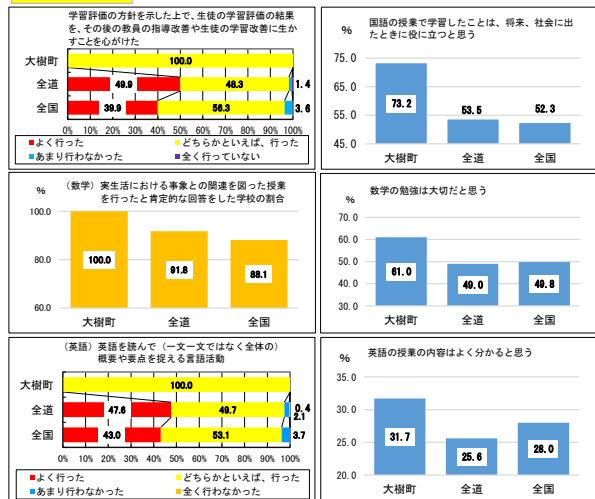


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「書くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫を行ったことにより、算数の勉強は大切だと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習評価の方針を示した上で、生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけたことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の3領域2事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「図形」「関数」「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語の授業において、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動を行ったことにより、英語の授業の内容はよく分かると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の「読むこと」の領域で全国の平均正答率に近付いたと考えられる。

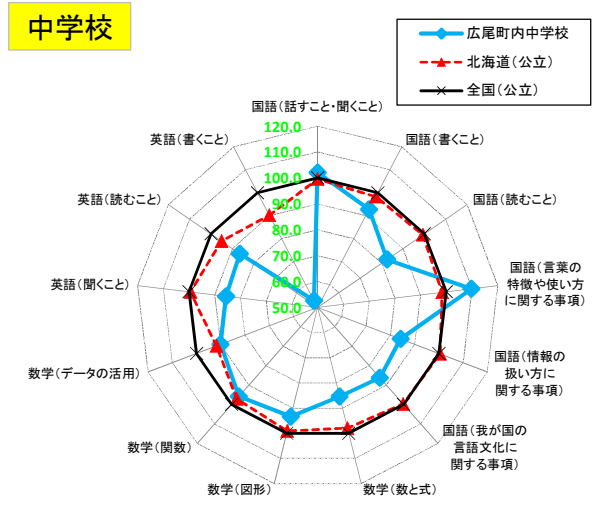
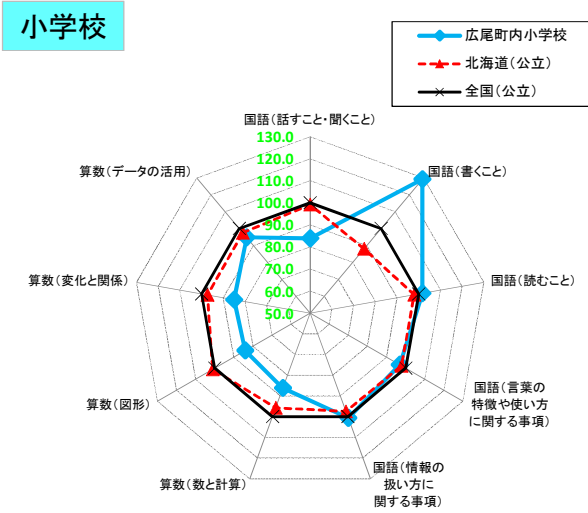
【大樹町の学力向上策】

- ◎ 小学校国語科の「読むこと」領域における、指導事項の系統性を見据え、言語活動の充実を図った授業改善の推進
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 個別最適な学びの実現及び児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用

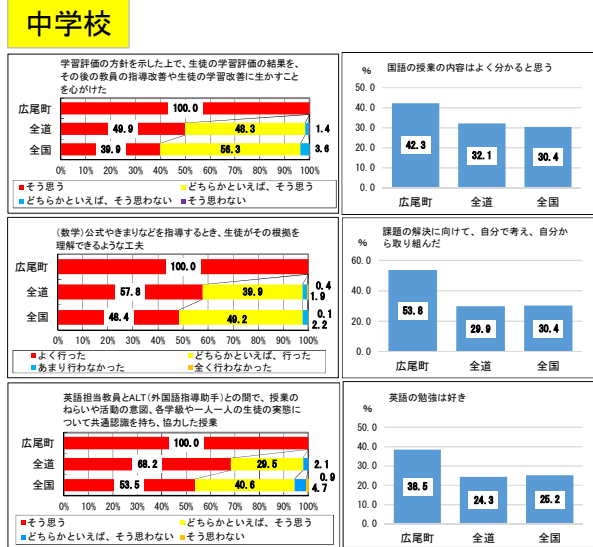
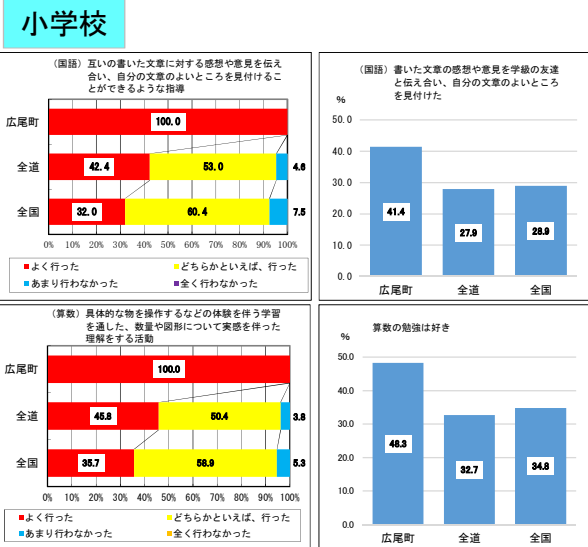
■ 広尾町内の状況及び学力向上策 (小学校数:2校、児童数:29人) (中学校数:1校、生徒数:29人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「書くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通した、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習評価の方針を示した上で、生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけたことにより、国語の授業の内容はよく分かると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の1領域1事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるような工夫を行ったことにより、数学の「関数」の領域で全国及び全道の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

英語担当教員とALT(外国語指導助手)との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行ったことにより、英語の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【広尾町の学力向上策】

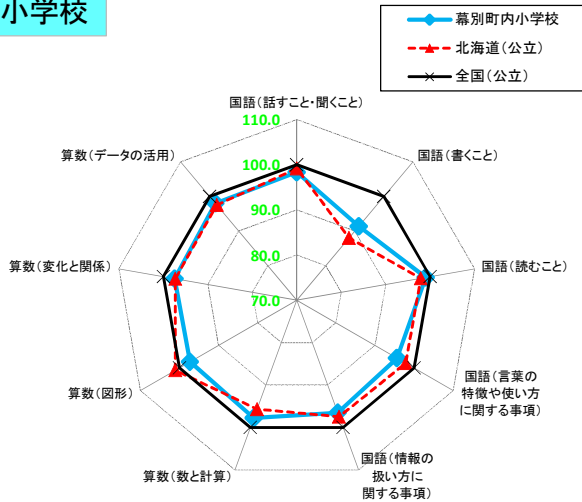
- ◎ 「学校力向上に関する総合実践事業」を活用した授業改善の推進
- ◎ 一人一台端末を活用した学習指導の充実
- ◎ 小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成

■幕別町内の状況及び学力向上策（小学校数：9校、児童数：254人）（中学校数：5校、生徒数：206人）

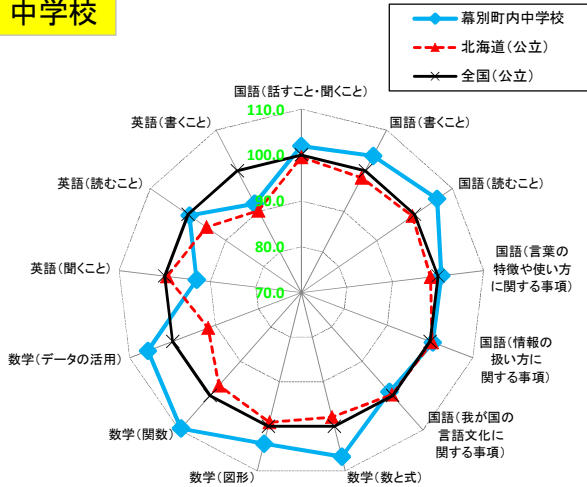
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

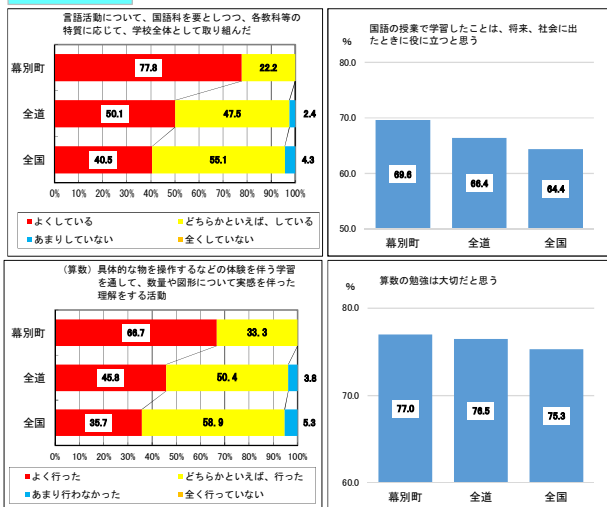


中学校

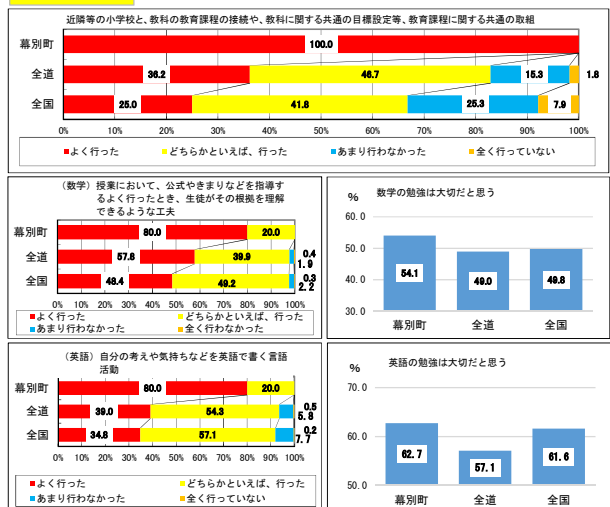


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「読むこと」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行ったことにより、国語の3領域2事項、数学の全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるような工夫を行ったことにより、数学の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

英語の授業において、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行ったことにより、英語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の「書くこと」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

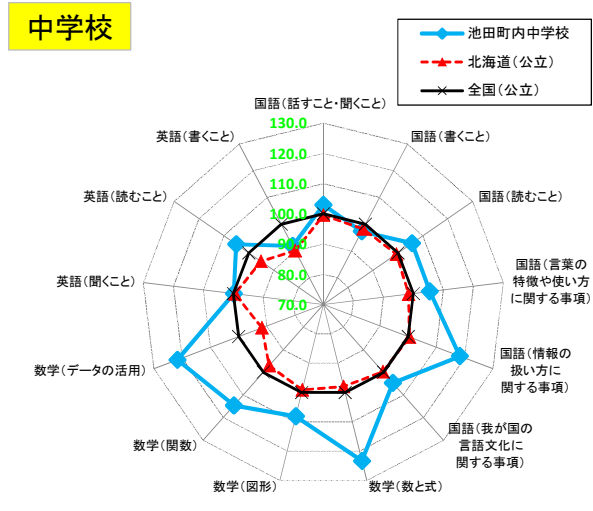
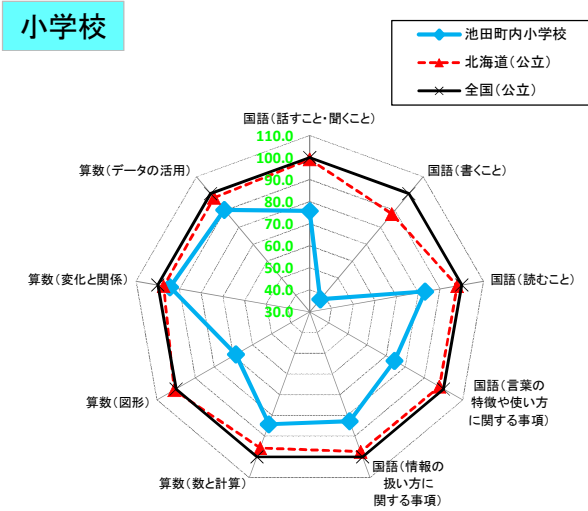
【幕別町の学力向上策】

- ◎ 中学校で成果があった取組を小・中学校の全教職員で共有するなど、小・中学校が連携した検証改善サイクルの確立
- ◎ 小・中学校による授業参観の継続や9年間で育成を目指す資質・能力を明確にした合同授業改善研修会の開催
- ◎ 児童生徒自身が、1人1台端末を活用して家庭学習を行えるようにするための指導や授業との関連、家庭との連携の推進
- ◎ 社会教育と連携することによる地域人材を効果的に活用した放課後学習サポートの実施

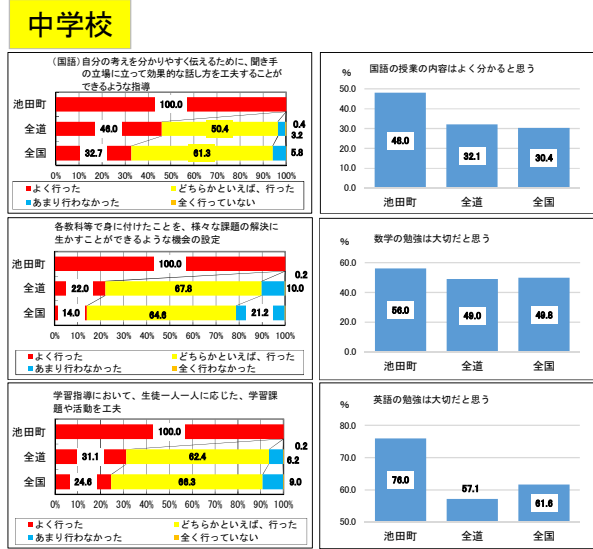
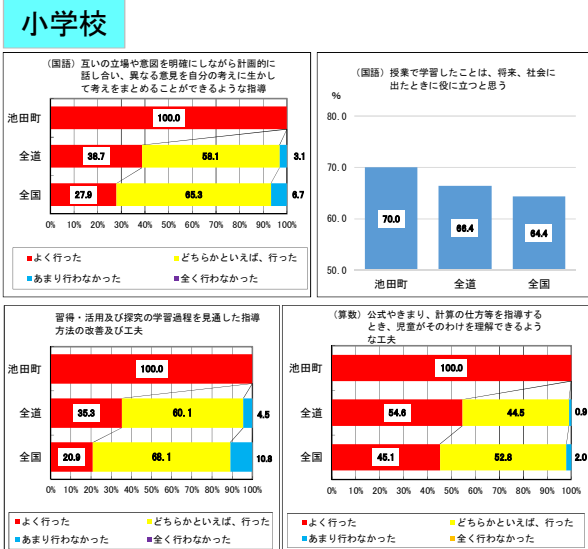
■池田町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：40人）（中学校数：1校、生徒数：26人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしなが
ら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考
えをまとめることができるような指導を行ったことにより、
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役
に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回
ったと考えられる。

日常の授業において、習得・活用及び探究の学習過程を見
通した指導方法の改善及び工夫を行うとともに、算数の授
業で、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童
がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の
「変化と関係」の領域で全国の平均正答率に最も近付いた
と考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるた
めに、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫するこ
とができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内
容がよく分かつと回答した生徒の割合が全国及び全道を上
回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全
国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かす
ことができるような機会を設定したことにより、数学の勉強
は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上
回るとともに、数学の全ての領域で全国及び全道の平均正
答率を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒一人一人に応じた、学習課題や活
動を工夫したことにより、英語の勉強は大切だと思うと回答
した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の
「読むこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回
ったと考えられる。

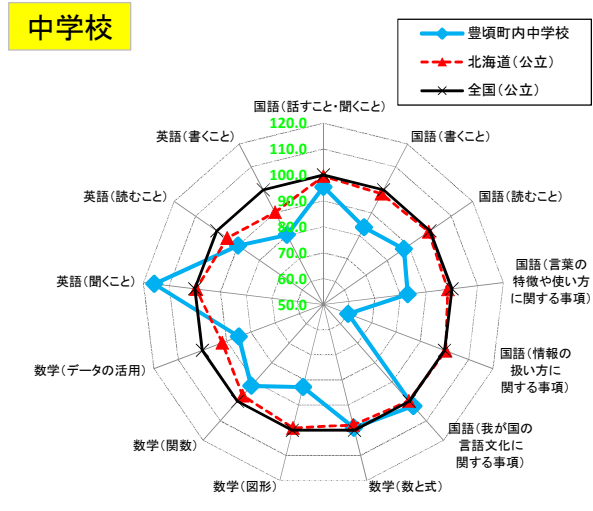
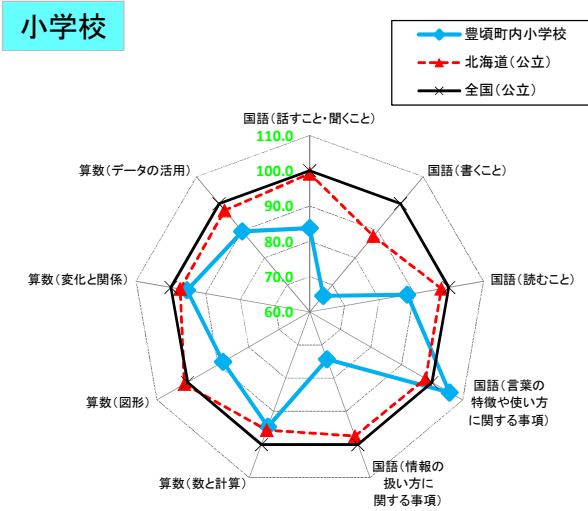
【池田町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果分析に基づく児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
- ◎ 小学校での少人数学級による指導や中学校での習熟度別指導等による個に応じた指導の充実
- ◎ 各教科等におけるICTを効果的に活用した指導による児童生徒の学習意欲の向上に向けた取組の推進

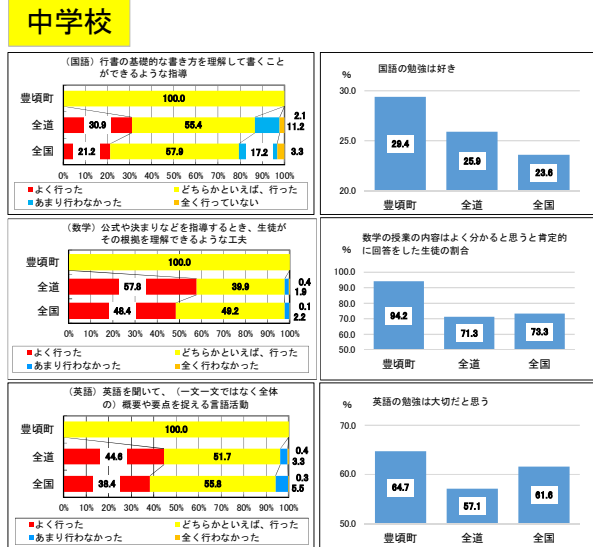
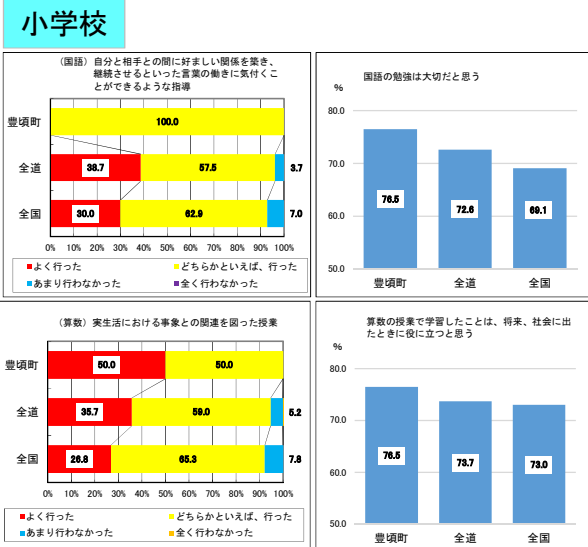
■豊頃町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:17人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、行書の基礎的な書き方を理解して書くことができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「我が国の言語文化に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式や決まりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるような工夫を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かつと思うと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「数と式」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語の授業において、英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動を行ったことにより、英語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の「聞くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

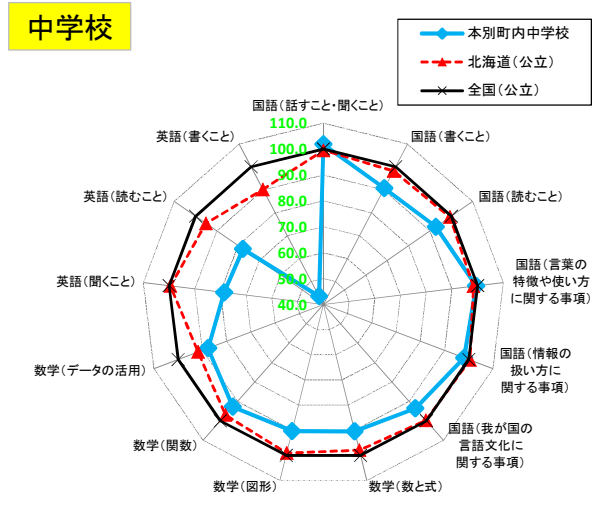
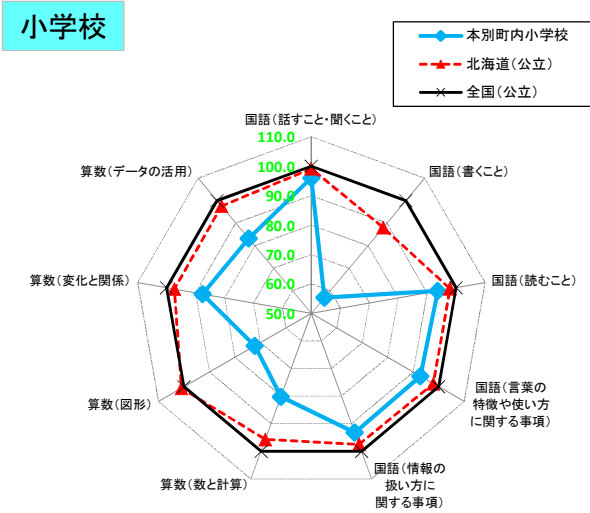
【豊頃町の学力向上策】

- ◎ 小学校国語科における、主体的・対話的で深い学びに向けた、指導事項の系統性を見据えた授業改善の推進
- ◎ 学校課題の解決に向けた組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 個別最適な学びの実現及び児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用

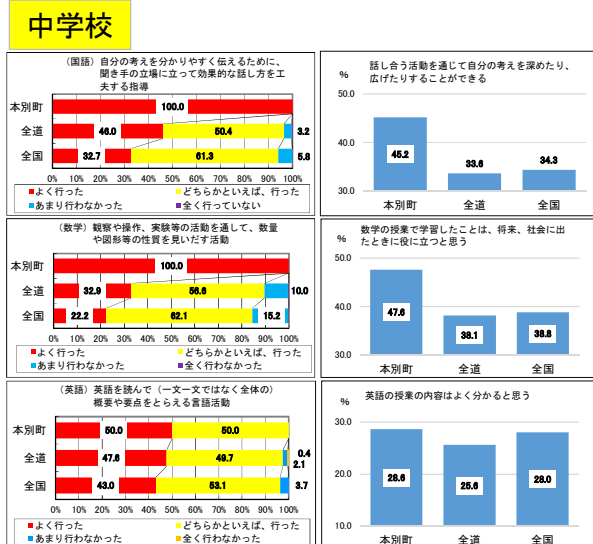
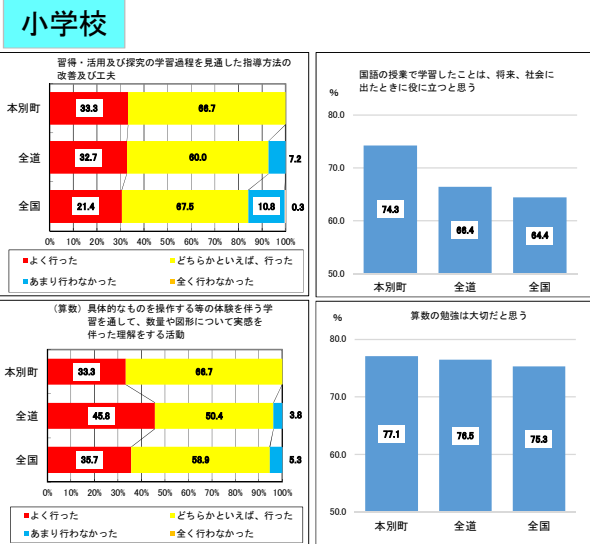
■本別町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:33人）（中学校数:2校、生徒数:41人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均正答率に最も近いと考えられる。

算数の授業において、具体的なものを操作する等の体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立つて効果的な話し方を工夫する指導を行ったことにより、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

英語の授業において、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる言語活動を行ったことにより、英語の授業の内容はよく分かると思われ、英語の授業の内容はよく分かると思われ、英語の授業の内容はよく分かると思われ、英語の授業の内容はよく分かると思われ。

【本別町の学力向上策】

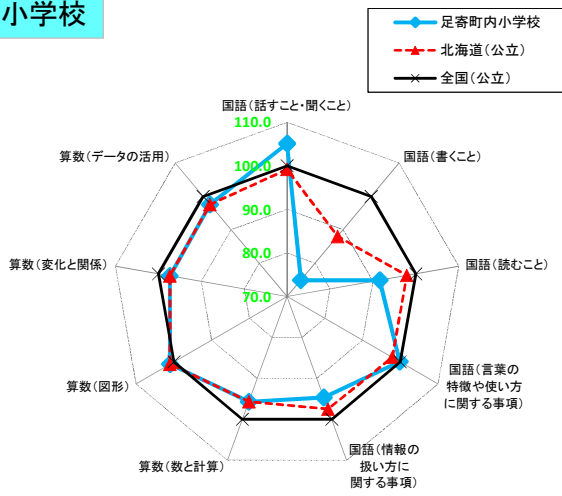
- ◎ 町内学力向上プロジェクトによる算数・数学を中心とした授業改善の推進
- ◎ 中学校教員による小学校への乗り入れ授業及び教科担任制の実施など小中連携の取組の推進
- ◎ 家庭における学習習慣の確立及び小・中学校の連携した取組の推進

■足寄町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:45人）（中学校数:1校、生徒数:47人）

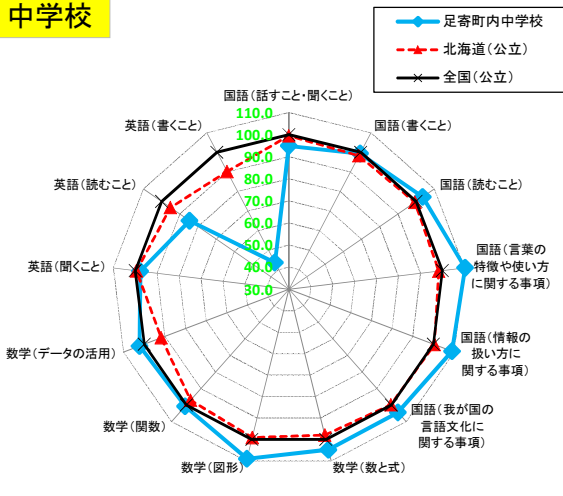
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

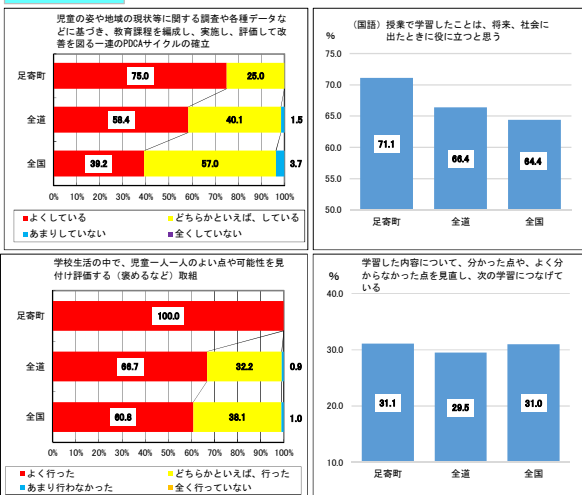


中学校

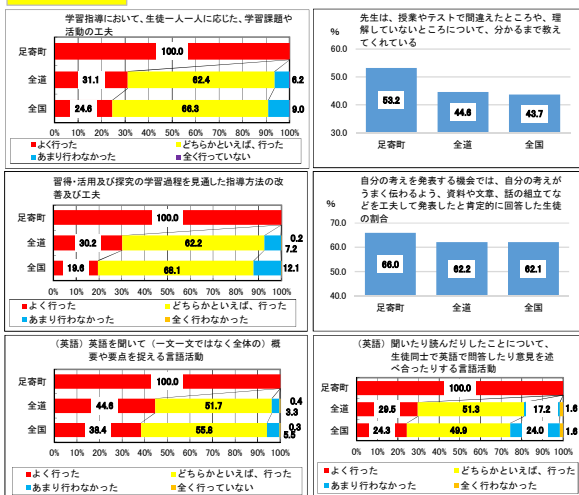


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したことにより、授業改善が促進され、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行ったことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習指導において、生徒一人一人に応じた、学習課題や活動を工夫したことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると感じている生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の1領域3事項、数学の全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動や、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行ったことにより、英語の「聞くこと」の領域で全国の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

【足寄町の学力向上策】

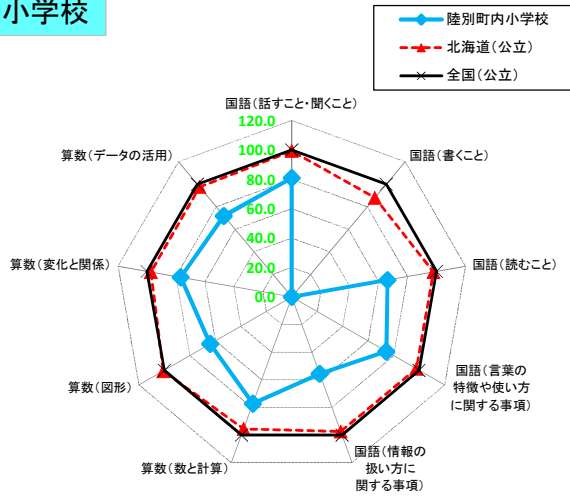
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 学習アプリによる読解力向上を図る取組等、学校課題の改善に向けた1人1台端末の効果的な活用
- ◎ 町の支援員等を活用した習熟度別・少人数指導による個に応じた指導の充実

■陸別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:11人）

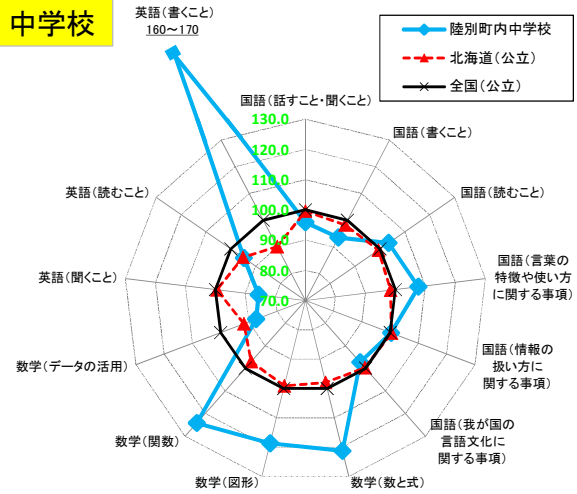
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

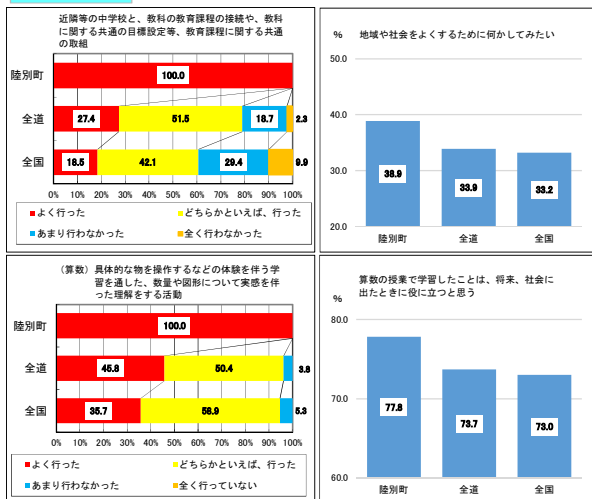


中学校

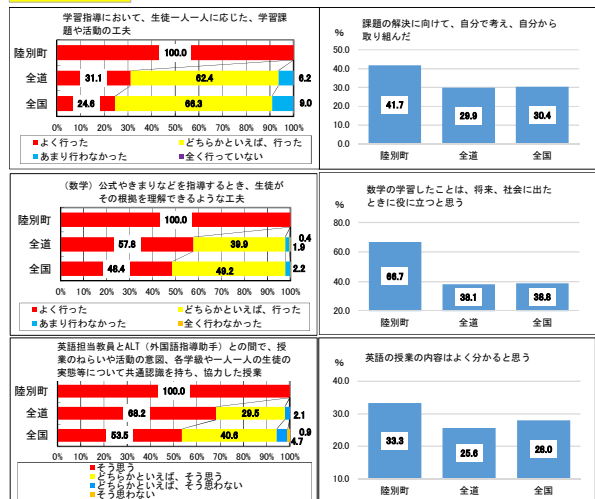


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

近隣の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行ったことにより、地域や社会をよくなるために何かしてみたいと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

生徒一人一人に応じて、学習課題や活動の工夫を行ったことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の1領域1事項、数学の3領域、英語の1領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

英語担当教員とALT(外国語指導助手)との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行ったことにより、英語の授業の内容はよく分かると思われ、回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【陸別町の学力向上策】

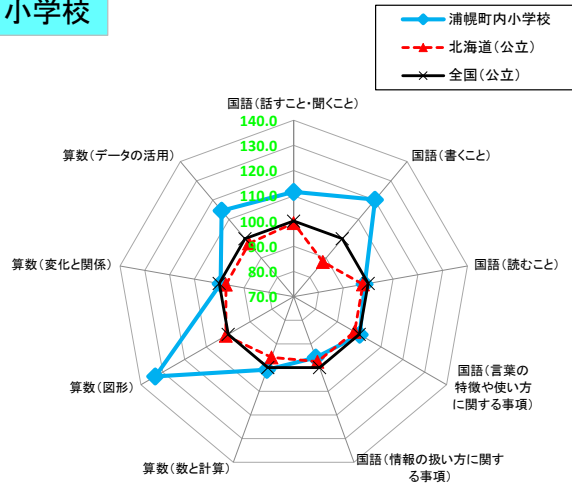
- ◎ 小中一貫教育を推進し、小・中学校の分析成果を共有した検証サイクルの確立
- ◎ 小・中学校合同による研修会や、日常的な相互授業参観、乗り入れ授業の実施
- ◎ 各教科等における1人1台端末を活用した個別最適な学びの実現に向けた取組の充実

■浦幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:28人）（中学校数:2校、生徒数:20人）

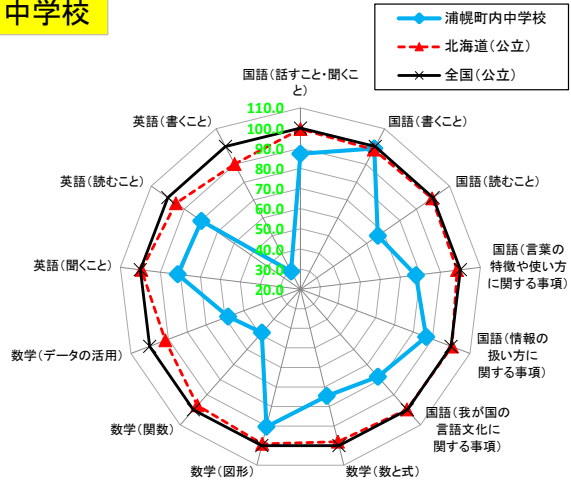
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

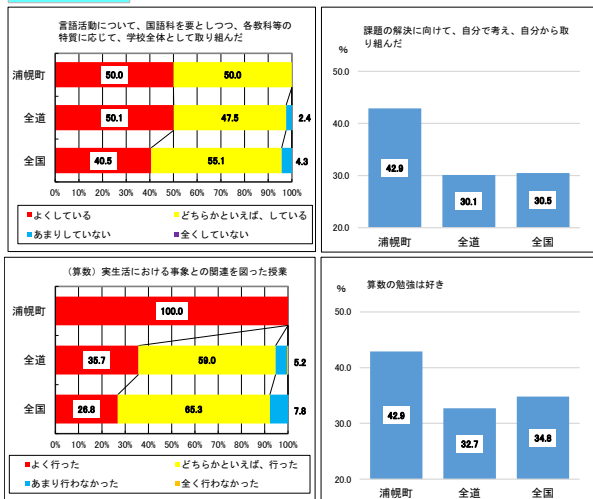


中学校

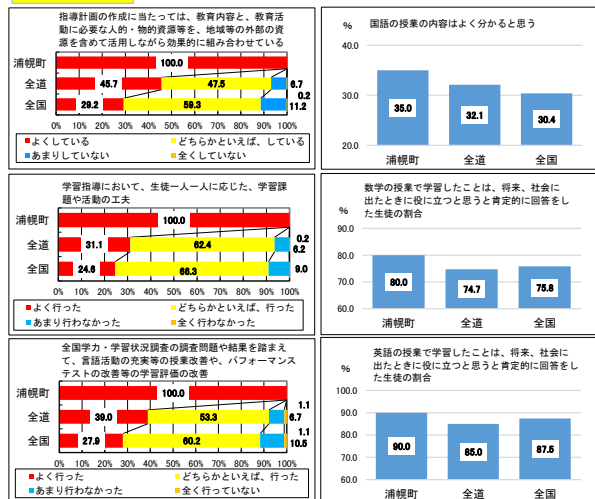


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の2領域1事項、算数の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせて指導計画を作成したことにより、国語の授業の内容はよく分かると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「書くこと」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒一人一人に応じた、学習課題や活動を工夫したことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「図形」の領域で全道の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

全国学力・学習状況調査の調査問題や結果を踏まえ、言語活動の充実やパフォーマンステストの改善等に取り組んだことにより、英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【浦幌町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果分析及び課題を明確にした数値目標の設定による検証改善サイクルの確立
- ◎ 思考力、判断力、表現力等を高めるための小学校における言語活動の充実や中学校における課題解決的な授業の実施
- ◎ 小・中学校及び子ども園等の合同の研修会や中学校教員による乗り入れ授業等の実施
- ◎ 小中一貫コミュニティ・スクールの取組における学習ルールの統一及び家庭学習の取組の推進